

ボリュームに富む淡黄色スプレーカーネーション新系統「きらり」		
<p>[要約]</p> <p>「きらり」は地色が淡黄色で、極淡いピンク色の覆輪が入る複色系スプレーカーネーションである。ガンマ線照射を用いた突然変異育種により育成した系統で、切り花形質が優れ、生産者、市場関係者の評価も高い。</p>		
農業総合センター 生物工学研究所・園芸研究所	成果区分	普及

1. 背景・ねらい

カーネーションは、全国でもキクに次いで切り花出荷量が多く、本県花き生産においても主要品目となっている。また、本県ではカーネーション生産者が自ら育種を行う「生産者育種」が盛んで、様々な品種が育成されており、現場からはこれらを元にした花色の異なるカーネーションの育種が求められている。そこで、突然変異育種を用いて県オリジナル品種を育成する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 平成17年に生産者育成スプレーカーネーション「常陸野ひよこ」苗200本にガンマ線を100Gy照射して得られた花色変異系統である。
- 2) 花色は地色が淡黄色（RHSカラーチャートの2Dに相当）で、覆輪が極淡いピンク色（RHSカラーチャートの69Dに相当）となり、「常陸野ひよこ」よりも覆輪の色が淡くなっている（図1、表1）。
- 3) 開花始めは「常陸野ひよこ」より2週間ほど早い中生である。
- 4) 切花長、切花重、茎径は「常陸野ひよこ」よりやや減少する（表1）。
- 5) 分枝数、花径、花弁数は、「常陸野ひよこ」とほぼ同じである（表1）。
- 6) 収量（採花本数）は、「常陸野ひよこ」とほぼ同程度である（表1）。
- 7) 市場評価は、花の質、ボリューム感の項目で良い評価が多い（表2）。
- 8) 現地試験に供試した3名の生産者による評価は、切花長、花色、花の質、花数、茎葉色、ボリューム感の項目で良い評価が多い。収量性の評価は普通程度であるものの、切り花形質が優れていることから、生産者3名とも導入希望である（表3）。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 平成27年3月26日に品種登録された。
- 2) 旧系統名は「ひたち2号」である。
- 3) 定植時期、栽培地域により変動するが、慣行品種に比べて開花時期はやや遅い。
- 4) 多くのカーネーションと同様に、花色が先祖返りや他の色へ変異する場合がある。
- 5) 種苗は常陸野カーネーション組合を通して県内生産農家へ配布する。

4. 具体的データ

表1 カーネーション「きらり」の特性（平成20～21年、笠間市安居）

品種・系統	切花長 (cm)	切花重 (g)	分枝数 (本)	茎径 (mm)	花径 (cm)	花弁数 (枚)	花弁の地色 ¹⁾	花弁の複色 ¹⁾	開花始め (月/日)	採花本数 (本/株)
きらり	77.9	46.7	10.4	4.6	5.7	35.2	2D (淡黄)	69D (極淡ピンク)	12/5	4.2
常陸野ひよこ	82.0	53.7	10.8	5.1	5.6	36.7	1D (淡黄)	N75D (濃ピンク)	12/17	3.7
ライトクリームキャンドル	87.8	50.6	18.1	4.6	5.0	21.7	2C (黄)	NN155B (白)	1/13	4.0

1) 花色はRHSカラーチャートによる。

注) 調査36株、パイプハウスに定植6/24、一次摘心7/11～28、二次摘心9/1～17。
採花本数データのみ別圃場：調査18株、定植7/11、一次摘心7/15、二次摘心9/1・9/12、開花日；「きらり」1/10、「常陸野ひよこ」1/3、「ライトクリームキャンドル」12/26、調査終了5/10。



図1 カーネーション「きらり」の開花形態

表2 カーネーション「きらり」の市場評価（平成21年、2市場、回答者15人）

評価基準	良い	やや良い	普通	やや劣る	劣る
花色	10	1	4	0	0
花の質	10	4	1	0	0
茎葉の色	9	2	4	0	0
ボリューム感	13	2	0	0	0
商品性	4	6	5	0	0

表3 カーネーション「きらり」の生産者評価(平成22年5月中旬)

作りやすさ	開花時期		切花長	花色	花の質	花数	茎葉色	ボリューム感	病害虫の発生	収量性	総合評価	導入希望有：無
	一番花	二番花										
3.3	3.3	3.3	5.0	4.7	4.3	4.0	4.3	4.3	3.3	3.3	4.0	3:0

注) 生産者3名による評価。作りやすさ・開花時期・切花長・花色・花の質・花数・茎葉色・ボリューム感・収量性・総合評価；1：極劣，2：劣，3：普通，4：良，5：極良。病害虫の発生は1：極めて多い，2：多い，3：普通，4：少ない，5：無しで判定した。全項目において「常陸野ひよこ」の評価を3とし、比較した時の達観評価とする。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

- 1) 生産現場開発型育種によるイチゴ、カーネーションの新品種育成・平成16～平成19年度・生物学研究所果樹・花き育種研究室
- 2) 新品種育成普及促進事業・平成6年度～・生物学研究所果樹・花き育種研究室
- 3) 新品種育成普及促進事業・平成18年度～・園芸研究所花き研究室